

☆☆東京民医連☆☆ 薬害根絶の会にゅ〜す♪

2010年11月17日発行 No.18

～薬害イレッサ訴訟の全面解決に向けて～ 総決起集会開催！！

日時 11月26日(金)
午後6時30分～8時30分
場所 文京区民センター3-A会議室

入場無料

イレッサは「なんで」薬害になったの？

イレッサは今、臨床の場で慎重に使われている。「期待もできる、しかし、副作用は重大である」ことが知られてきたためだ。

だからこそ、発売後わずか3カ月で180名もの死亡者をだしてしまった要因を明確にしなければ、被害者やその家族は納得できない。

画期的新薬という情報と同じくらい、副作用の注意喚起がなされ、万全な安全対策が施されていれば、実質的な第三相試験である市販後調査が全例調査であれば、..これほどの被害にはなりえなかったのでは..

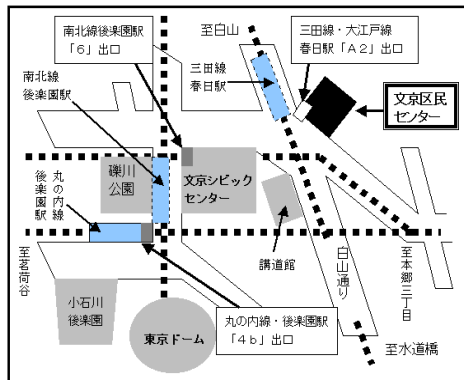
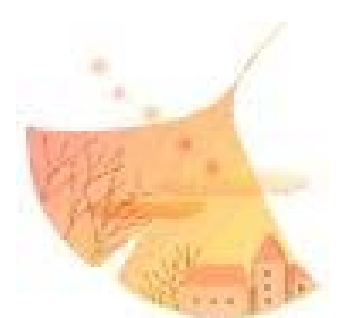
来春だされる判決が、これからの薬(とりわけ抗がん剤)の在り方をより良いものに変えるものにするため、この集会で、多くの人にアピールしていきましょう！

☆署名のお願い☆

『抗がん剤副作用死亡と医薬品副作用による胎児死亡について 被害救済制度の創立を求める請願』にご協力ください♪

♥署名用紙送ります。

このニュースを読んでくれること、その内容を身近な人に伝えてくれることが薬害根絶の大きな力になっています。



10・16 薬害根絶フォーラムin札幌が開催されました☆

(北大にある会場は250人もの人で埋め尽くされた。薬被連加盟の9団体から、14名の方がその被害を自分の言葉で語った。

はじめはサリドマイド被害者の千田ちづるさん。彼女は昭和37年生まれ、上肢被害である。彼女は産まれてしばらく母に抱かれなかった。キリスト教のその病院では、母親が子の姿にショックを受けて手にかけるのではと心配したからだそう。

彼女は幼・小児期を北海道の親元を離され横浜の施設で暮らした。全国のサリドマイド児を一か所に集めるという措置がとられたためである。経済成長著しい日本にあって、「負」の部分を探そうとしたかったのだろうか..人権などない。彼女の母は、全ての子を親元に帰すため何年も国と掛け合ったという。初めて知ることだった。

「こんな悲惨なことは自分で最後だと思っていた」何人もの被害者が放った言葉だ。裁判にまで訴えたその真の願いは「2度と繰り返さないでほしい」なんだと痛感した。

薬害イレッサ東日本訴訟結審

8月25日 被告側最終弁論を傍聴した東医研メンバーからの報告(抜粋です)。

！重大な副作用に載せていたから問題ない⇒患者への説明責任は医療現場に丸投げしたような弁論。

！1例でも死亡例が出たら「警告」にしなきゃならないのか⇒1人の命の大切さを感じているのか！

！がんの新薬開発が委縮する⇒何百人もの死亡例を出した薬に対しての裁判で「不当に委縮」と強調..本当に癌の人を救いたいのか？

⇒新薬の開発は、有効で安全な薬を世に広めるという、希望に満ちたもの。

！原告証言は単なる評論にすぎない。臨床経験に乏しいのだから発言はもっと吟味すべき⇒臨床経験に乏しい？もっと吟味すべきは申請されたその物質「薬」なのでは？「育薬」という言葉を使っていたが、薬が育つ前に何人もの犠牲者を出して行くのだろう。

★私たち現場⇒情報が歪んでいた、不十分だったではすまない現状であることを認識し、策を講じるべく行動が求められているのでは。

★薬害を2度とおこさない、責任を明確化した判決ができることを願います。★

詳しくは：薬害イレッサ 書庫 <http://www.gaiki.net/yakugai/gef/>